

◆ 令和5年度 河川水質結果（年間平均値）

採水場所	水素イオン濃度 (pH)	生物化学的酸素 要求量 (BOD)	浮遊物質 量 (SS)	溶存酸素量 (DO)
楠川（藤木戸地点）	8.0	0.5 未満	5	12.6
新田川（大御堂地点）	8.1	1.4	5	12.1
新田川（本郷地点）	8.0	2.1	4	11.0
窪川（安盛寺地点）	8.6	4.2	6	12.8
忍保川（上里ゴルフ場入口地点）	8.0	1.2	19	11.5
忍保川（神保原地点）	7.9	3.2	24	10.9
御陣場川（なかの橋地点）	8.3	0.8	8	12.7
御陣場川（上里郵便局地点）	8.0	1.0	8	12.8
御陣場川（石神橋地点）	8.2	1.7	8.5	12.7
御陣場川（忍保川合流地点）	8.1	1.6	11.5	11.6
元小山川（起点）	7.9	3.0	8.5	9.9
環境基準	6.5 以上 8.5 以下	3mg/L 以下	25mg/L 以下	5 mg/L 以上

※生活環境の保全に関する環境基準（環境省）「河川：類型 B」を基準値に設定しています。

◆用語解説

◇水素イオン濃度 (PH)

酸性、アルカリ性を示す指標で、「7」は中性、「7」を超えるとアルカリ性、「7」未満では酸性を示します。水温によって変動し、極端なアルカリ性化、酸性化は河川に生息する水生生物等に悪影響を及ぼします。

◇生物化学的酸素要求量 (BOD)

水中にある有機物を、好気性微生物が分解するときに消費する溶存酸素の量です。河川の汚濁の度合いを示す代表的な指標で、この数値が大きいほど川が汚れていることとなります。

◇浮遊物質 (SS)

溶けないで水中に浮遊している粒径 2 mm 以下の物質の量で、数値が高いほど水が濁っている状態です。浮遊物質が多いとヘドロ等が溜まったり、魚介類に悪影響を及ぼします。

◇溶存酸素量 (DO)

水中に溶解している酸素の量のこと、濃度が低下すると好気性微生物の活動が抑制され水域の浄化作用が低下します。酸素の無い川や少ない川では、悪臭が発生し、魚介類は生存できなくなります。